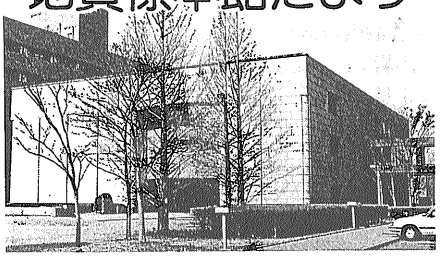
地質ニュース563号，70－71頁，2001年7月
Chishitsu News no.563, p.70－71, July, 2001

地質標本館だより



No.58

三宅島の高校生を迎えて火山活動の授業など
－産総研・地質標本館の事始め－

2001年4月の独立行政法人化に伴い，地質標本館は産業技術総合研究所成果普及部門に所属し，そして地質調査所の業務を継承した地質調査総合センターの一員として産総研における地球科学の研究成果の普及を行っていくことになりました．この新組織の下での最初の行事として，科学技術週間特別展示を開催しました（4月16日～4月20日）．また，産業技術総合研究所の一員として，四国センター（旧　四国工業技術研究所）の一般公開（5月26日～27日）にも参加しました．以下，これらの行事について紹介します．

1．科学技術週間特別展示（4月16日～4月20日）

恒例になった科学技術週間に，地質標本館は「三宅島火山」，「鳥取県西部地震」，「山陰の鉱物資源」の3つの特別展示を企画しました．「三宅島火山」，「鳥取県西部地震」は住民の方々に多大の被害をおよぼした三宅島の火山噴火（2000年6月27日～）および鳥取県西部で起きた地震（2000年10月6日）の2つの地質災害に関する地質調査所（現地質調査総合センター）の研究の取り組みとその成果を紹介するものです．「山陰の鉱物資源」は昨年秋に松江市で開催された山陰地質情報展（地質ニュース2001年4月号参照）の鉱物資源に関する展示にいくつかの標本を追加してつくば地域の皆様に紹介したものです．特に三宅島については今も全島避難という深刻な状況が続いており，島民の方々に島の現状を知っていただくことも合わせて意図しています．その一環として，現在，東京都あきるの市で避難生活を送られている三宅高校の生徒と先生の皆様（約100名）を産業技術総合研究所にお招きして，調査研究の最前線で活躍している地質調査総合センターの研究者が三宅島火山の現状と将来予測に関する講議を行い（写真1），地質標本館の特別展示を見学していただきました（写真2）．当日（4月17日）はあきるの市から2時間ほどかけてバスでつくばまで来ていただき，4時間にわたり産総研の研究紹介と以下の講議・見学に参加していただくハードな日程でしたが，自分たちの生活と関わる問題だけに参加した皆さんの関心は高く，あらためて地質災害の深刻さを実感しました．

三宅島火山に関する授業スケジュール（4月17日，於共用講堂・地質標本館）

○講義（12：00～13：00）
　司会：豊標本館長
　「火山について」（講師：宇都浩三）
　「最近の三宅島の火山活動」（講師：川邊禎久）
　「三宅島の火山ガスについて」（講師：風早康平）

○4班に分かれて地質標本館及び実験室の見学（13：00～15：00）
　（案内：佐藤岱生，熊田みさ子，谷田部信郎，春名　誠）
　標本館ロビー（説明担当：篠原宏志，風早康平，松島喜雄）
　標本館第1展示室（説明担当：斎藤　眞，豊遙秋，利光誠一）
　標本館第3展示室（説明担当：中野　俊，久利美和，山元孝広）
　共用実験室（実験機器説明担当：伊藤順一，川邊禎久，東宮昭彦，斎藤元治）

なお，この三宅島火山の特別展示に関しては，産総研成果普及部門の全面的な協力をいただき，まさに新組織としてのスタートに相応しい企画となりました．科学技術週間の入館者総数は753名で，上記の職員の他，以下の地質調査総合センター関係者の方々に展示解説およびその他の応援をいただきました：浦井　稔，遠藤祐二，奥山康子，川畑晶，河村幸男，酒井　彰，佐藤　努，下川浩一，角井朝昭，関口　敦，高木哲一，竹内圭史，富樫茂子，内藤一樹，須藤定久，中澤　努，坂野靖行，伏島祐一郎，松本則夫，山田良宏，吉田朋弘，脇

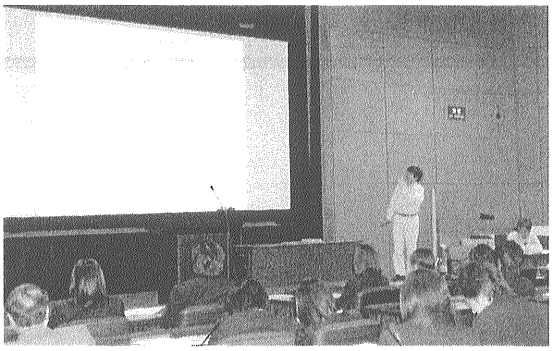


写真1　三宅高校生に三宅島火山の最近の火山活動について講議する川邊禎久主任研究員．ヘリコプターからの最近の三宅島のビデオ映像を中心に，講師，生徒共に熱心な授業が繰り広げられました．

田浩二（五十音順，敬称略）．これらの特別展示は7月13日まで公開を延長しました．

2. 四国の岩石（いしころ）
－プレートの贈り物－（産総研四国センター一般公開：5月26日～27日）

産業技術総合研究所の各地域センターでは地元の皆様に研究成果の公開・普及をしていこうと積極的に研究所の一般公開をしています．地質調査総合センターの一員であります海洋資源環境研究部門がある四国センターの一般公開はその第1回

写真3　産総研四国センターでの展示風景．手に触れることのできる標本を多く持ち込んだため，会場を訪れた子供だけでなく大人にも大変好評でした．

写真2　特別展示「三宅島火山」を見学している三宅高校の生徒に解説する篠原宏志マグマ活動研究グループ長．当日はテレビ局の取材がありました．

目となります．つくばセンターの地質調査総合センターからは吉田朋弘氏（地質調査情報部）と豊・谷田部（地質標本館）の3名が出向き，「移動標本館」，「地質図展」，「海洋資源環境」のテーマで出展しました．特に地質標本館から四国に関わる多くの岩石・鉱物・化石の標本を出展し（写真3），その多くが直接手で触れることができるようにしたため，会場（香川県高松市）に訪れた見学者に大変好評でした．あわせて，岩石・鉱物の出張地質何でも相談を行いました．隕石ではないか？ と標本を持ってこられた方がありましたが，鉱滓（溶鉱炉から出てきた鉄くず）だと判明し，ご本人は大変残念そうでした．公開した2日間の入場者数は621名でした．展示会場では地質調査所（現　地質調査総合センター）発行の地質図類の販売も行われましたが，まだまだ一般の方々には地質図はなじみの薄いもののようでした（標本展示，岩石・鉱物鑑定，地質図類の販売は5月26日のみ）．

なお，上記2つの行事の様子に関しては下記のホームページからリンクしてご覧になれます．地質調査総合センターの研究員の監修のもと，地質調査情報部の河村幸男，川畑　晶両氏のデザインによる展示解説パネルとともに当日のスナップ写真も掲示しています．

http://www.aist.go.jp/GSJ/Info/event/event.html

（利光誠一，谷田部信郎，豊　遙秋，熊田みさ子）